

折に触れ 四字熟語

NO. 34 『四海兄弟』 しかい けいてい

< 意味 > 真心と礼儀を尽くして他者に交われば、世界中の人々はみな兄弟のように仲良くなること。また、そうすべきであること。

< 出典 > 「論語」<顔淵>

「司馬牛憂曰、人皆有兄弟。我独亡。子夏曰、商聞之矣、死生有命、富貴在天。君子敬而無失、与人恭而有礼、四海之内、皆兄弟也。君子何患乎無兄弟也。」

読み下し：『司馬牛、憂えて曰く、「人はみな兄弟あり。われ独り亡し」。子夏曰く、「^{しょう}これを聞く、『死生命あり、富貴天に在り』。君子敬して失うなく、人と^{うやうや}恭しくして礼あらば、四海の内兄弟なり。君子なんぞ兄弟なきを^{うれ}患えんや」。

通 釈：司馬牛は嘆かずにはいられなかった。

「兄弟の達者な人がうらやましい。わたしだけだ、一人ぼっちは」
子夏が慰めて言った。

「死ぬも生きるも富貴になるもすべてこれ運命、ということばがあるではないか。運命を気に病むことなく、つねに礼を守って慎み深く人と交わっていくのが君子たる者の生き方だよ。そうすれば人間すべてが兄弟になる。実の兄弟がないことを悲しむには及ばない」

一 言：論語シリーズその3

同様の意味の四字熟語で「四海一家」「四海同胞」もあります。

参考文献：徳間書店「論語」三省堂「四字熟語辞典」